

令和元年6月19日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2014～2018

課題番号：26220401

研究課題名(和文) 宗教テキスト遺産の探査と総合的研究 人文学アーカイブス・ネットワークの構築

研究課題名(英文) An Exploration and Comprehensive Study of the Heritage of Religious Texts:  
Building a Humanities Archives Network

研究代表者

阿部 泰郎 (ABE, Yasuro)

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：60193009

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 142,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本に伝存する宗教文化の遺産を、テキスト学の視点と方法から総合的に探査し、その全体像と歴史文化的文脈を解明し、アーカイブス化して未来に継承することを目的に、諸位相の宗教テキストの探査とアーカイブス化を遂行した。その対象は、中部地域から全国に亘る寺社・民間の宗教文献と図像・儀礼に及ぶ宗教テキストであり、その体系構造を明らかにすることを領域融合による協働により果たし、国際共同研究によりあらたな学術研究モデルの創出を目指すものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間内に、真福寺大須文庫のデータベース基礎構築と『中世禅籍叢刊』(全12巻)を完結させ、中世仏教における禅の再認識をテキスト研究から推進したのを始め、日本各地の寺社、民間の重要な宗教テキスト群の悉皆調査とアーカイブス化を促進した。宗教図像と儀礼のテキスト学研究も、聖徳太子絵伝や安居院唱導文献の諸領域で、国際共同研究を行い、人間文化研究機構と連携し、四館総合展覧会「列島の祈り」開催を通じて社会に成果を発信した。

研究成果の概要(英文)：This research project analyzed the religious cultural heritage of Japan through the perspective of textual studies. Our goal was not only to clarify their role and function in their cultural and historical context. We also strived to create an archive of various types of the various types of religious texts and artifacts in order to transmit this heritage to future generations. Concretely, this project has built, through extensive collaborative research and field-work, a synthetic view of one particular type of such sources: the religious texts, images and rituals conserved both in institutions such as temples and shrines, and in private collections. Our efforts first concentrated on central Japan, but gradually expanded to include the whole country. We then used this data in order to create a new workflow and methodology to study sources. This has been made possible through the comprehensive international collaborations with various universities that we have already been engaged in.

研究分野：日本文学・宗教テキスト学

キーワード：宗教文化遺産 花祭アーカイブスと民間宗教文献 大須観音真福寺文庫と中世禅籍 聖徳太子絵伝と絵ものがたり 中世宗教テキスト 連携展示「列島の祈り」 宗教テキスト遺産 宗教文献と儀礼・図像の統合

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

名古屋大学文学研究科における10年間の国際テキスト学研究拠点構築の先端的成果として、宗教テキスト学を提起し、三次にわたる科研基盤(B)(A)を経て、その過程で宗教テキストの概念対象を文献から儀礼・図像の次元に拡大<sup>(注1)</sup>し、更に高度なアーカイブ化の推進と結合させる社会的実践の拠点として人類文化遺産テキスト学研究センター(CHT)を設立、テキスト研究の領域融合と国際共同研究への展開を目標に本(S)科研を申請し、採択に至った。

### 2. 研究の目的

(1) 日本全国に伝存する歴大な諸位相の宗教文化の所産を、テキスト学の視点と方法により「宗教テキスト遺産」として再認識する。文献から図像・儀礼を含むその体系構造を総合的に把握し、それらが形成伝来して果たした役割を、歴史・文化的文脈の解明により多角的な解釈を試み、見いだされた普遍的価値と意義を社会と共有し、活用する方策を示す。

(2) テキスト学の高度な応用実践としての宗教テキストの文化遺産化にあたり、教導する諸学術分野、領域と研究者、機関間の連携を実現し、更に国際共同研究として展開させることにより、遺産の所蔵者や地域ひいては社会とその価値や意義を共有し、国際学术界に成果を発信する。

### 3. 研究の方法

(1) アーカイブ化 文庫、寺社、個人の所蔵になる宗教文献等を、悉皆的に調査し、目録化して、その全点ないし宗教テキストとして対象化される特定領域を、デジタル技術を活用した高精細画像データとして取得し、書誌および本文データ等を複合したデータベースに統合しつつ、調査した各宗教テキストが相互に比較参照できる学術資源基盤を作成する。

(2) 宗教テキストの可視化 上記のアーカイブ化においては、文献テキストに限らず、図像テキスト、儀礼テキスト(物質性をもつモノの次元と、祭儀芸能など無形の次元)を含めた多元複合のテキストを総合的に把握、認識し、研究や展示に利用できる形のデータ化が必要であり、特に図像テキストとの統合に重点を置き、その高度な可視化を追求する。

(3) 領域融合による総合研究 対象宗教テキスト毎に関連する専門分野の研究者・機関および業者と連携・協働する領域融合型の共同研究を組織し、その文化遺産化のため必要な方法を開発し、研究成果も学界と社会に適切な形で公開・発信する。

(4) 国際共同研究との結合 探査と研究の過程での発見や成果を、海外の先端人文科学研究機関の中核研究者と共有し、共同して最先端研究課題に取り組むことにより、宗教テキスト研究を国際的にあまねく進展させ、データや研究成果を共有しつつ、その遺産化を促進する。

### 4. 研究成果

(1) 文献学的調査による中部と全国の寺社文庫・民間の宗教文献群のアーカイブ化。

中部地域 a 真福寺大須文庫の基幹データ作成は、黒板目録による全10,763点の電子入力を完了し、データベース基盤を構築した。『中世禅籍叢刊』と『真福寺善本叢刊神道篇』に収録する文献を中心に、1,198点のデジタル撮影を行い、断簡データベースは中心となる百十分分を収録。国文学研究資料館撮影マイクロフィルム1,953点はオープンデータとして公開に至った。b 蓬左文庫は、朝鮮本の中核を成す『高麗史節要』(重文)以下、2,083コマのデジタル撮影とその利用のためのシステムを制作、文庫に提供し「豊かなる朝鮮王朝の文化」等に活用された。c 猿投神社は、豊田市史編纂室と共同し、猿投神社漢籍・国書(重文)と聖教全600点のデジタル撮影を完了し、アーカイブ化基盤を作った。d 花祭については、東栄町と豊根村の五件の電子アーカイブ化(7,121コマ)と目録を作成、自治体と所蔵者に提供した。<sup>(注2)</sup>

全国各地 e 大阪和泉市池辺家の覚超自筆『修善講式』(989年写)等伝来文献15点130コマを電子アーカイブ化し、市に提供した。f 広島・庄原市朽木家蔵神楽太夫伝来文献全点(5,517コマ)の調査と電子アーカイブ化基盤を完了した。g 福島、只見町瀧泉寺聖教全635点の調査を完了し、アーカイブ化基盤を構築した。h 静岡、富士市博物館所蔵六所家資料、旧東泉院聖教全2,000点の調査を完了、市と共同で目録を刊行し、アーカイブ化基盤を構築した。<sup>(注3)</sup> i 大阪市平野の杭全神社蔵「聖徳太子絵伝」十幅と、大念佛寺蔵「融通念仏縁起」絵巻等10点の電子アーカイブ化を完了した。j 富山、南砺市井波瑞泉寺蔵「聖徳太子絵伝」八幅(重美)、同城端善徳寺蔵「聖徳太子絵伝」k 個人蔵(大阪・兵庫)絵巻・絵本の電子アーカイブ化(3,761コマ)を行った。

海外所在 m ハーバード美術館蔵「聖徳太子二歳像」像内納入宗教テキストの調査を行い、その成果として資料集を作成、2017、2018、2019のワークショップ・セミナーに提供し、共同研究資料集を編集・刊行予定(2020年)。同美術館蔵「西行物語」絵巻、「為世の草子」絵本のデジタルコンテンツ作成(151コマ)。n 国立台湾大学図書館蔵旧台北帝大蔵書宗教テキスト(仏教・神道関係)予備調査を行い、18点を採訪した(2016、2017)。o アイルランド・チェスターピーティライブラリーおよび米国フリーア美術館所蔵の宗教テキストを含む絵巻・絵本の総合調査・研究ワークショップを行い、それぞれの所蔵資料データを共有した。p 米国議会図書館所蔵宗教テキスト(仏教関係)・絵本の予備調査を行い、19点を採訪した(2019)。



聖徳太子二歳(南無仏)像と像内納入品の宗教テキスト体系布置  
( <https://www.harvardartmuseums.org> より引用・研究情報付加)

- (2) 宗教テキスト文化遺産をめぐる領域融合と国際共同研究による人文学先端研究の開拓  
真福寺大須文庫の宗教文献調査にもとづく中世禅を視座とした仏教諸宗の思想形成の解明。  
金澤文庫保管国宝称名寺聖教等との比較による新たな思想文脈の発見。  
韓国東国大学仏教学術院・高麗大蔵経研究所と共同研究を協定し、文庫の高麗仏典の調査を行いデータを共有した(2016)。  
神道文献の網羅的精査による神道説形成の文献学的解明。これらの成果は、『中世禅籍叢刊』全12巻(2014-18完結、別巻論集2019刊行)および『真福寺善本叢刊第三期神道篇』全4巻(2019~、刊行開始)として学界に提示された。  
花太夫伝来文献調査にもとづく修験・陰陽道等民間の祭祀芸能資料と諸寺院聖教との宗教思想上の連関の解明による、汎領域的日本宗教思想の系譜究尋。  
ロンドン大学 SOAS、CA サンタバーバラ校との国際共同研究による日本密教を中心とした宗教的身体観「五蔵曼荼羅」の系譜の解明。  
花祭といざなぎ流祭儀と宗教テキスト(祭文類)の比較から全国的な比較研究へと発展し、全国諸地域に伝来する神楽太夫と修験等宗教テキストの調査が本格的に展開。  
宗教テキスト文化遺産としての儀礼/思想テキスト 論義・談義や灌頂受戒等をめぐる教義教理の問答・論争のテキストの形成と相互関連の解明による宗教テキスト認識の革新。  
コレージュ・ド・フランス、龍谷大学との国際共同研究による論義と宗論を中心とした宗教思想のテキスト学による実態と論理の究明。コレージュ・ド・フランス国際「論義」研究集会(2017)開催。龍谷大学国際シンポジウム「日本仏教と論義」(2018)開催。  
CA サンタバーバラ校で金沢大学等と協力し、国際研究集会「灌頂の世界」(2018)開催。  
ハーバード美術館蔵聖徳太子二歳像(1292造立)像内納入宗教テキストの解読による中世仏教の多元複合動態の定座標化を企てた。  
ハーバード大学、東北大学、金澤文庫等との国際共同研究により、ハーバード美術館と金澤文庫で国際研究ワークショップ(2015,2017,2018)と展覧会における成果公開のための国際セミナー(2019)開催。  
中世聖徳太子絵伝の解読とその文化遺産としての研究資源化。  
東京国立博物館、奈良国立博物館、堺市博物館、龍谷ミュージアム、安城歴史博物館、三重総合博物館等との太子絵伝諸伝本の調査研究と画像データ等の研究資源の共有を介した聖徳太子信仰宗教テキストの多元複合的特質の解明。  
図録資料集、デジタルデータソフトウェア提供等による展覧会等への協力(2016)と「絵解きフォーラム」(2016,2018,2019)開催。海外(米国、フランス等)での絵解きワークショップ(2015,2018)開催。  
海外・国内所蔵絵ものがたり文化遺産の探査と多角的解読による総合的研究。  
米・仏・独の日本美術史研究者と国内の研究者の共同による、在外日本絵巻・絵本の調査と画像データの共有を介した解読分析の高度化と文化遺産化。  
アイルランド、チェスターピーティライブラリー(2017)、ドイツ、リンデン美術館(2017)、米、フリーア美術館(2019)等の国際ワークショップを経て、共同研究成果の論集を共同編集(執筆中)。  
宗教テキストを基盤とした多元文化論的研究としての 境界 の文化遺産を探究。  
コロンビア大学との共同研究として 境界 の文化遺産の諸位相を日本の宗教・文学・芸能にわたり多角的に研究し、宗教テキスト遺産の調査研究の総合化を推進する。コロンビア大学で国際研究集会(2019)を行い、その成果論集(英文)を編集、刊行(2020)する。  
人文学アーカイヴス・ネットワークの構築のプロセスとして「日本宗教文献調査学」研究集会の開催に協力(第1回慶應大学、2017)、主催(第2回名古屋大学、2018)し、継続して宗教テキスト調査研究と成果情報の共有および高度化と連携の推進に貢献。  
全国の宗教テキスト調査研究者、調査グループとの交流を始め、各地域の調査研究拠点と

の連携（名古屋大学 CHT と弘前大学地域文化創成センターの協定締結 2019 等）を進めた。

### 3 宗教テキスト遺産研究成果の学界および社会発信と還元。

宗教テキスト遺産の調査研究報告成果物の刊行。

CHT による『CHT ニュースレター』（1~4）と学術誌『HERITEX』（1~3）の刊行。

宗教テキスト研究資料集『中世禅籍叢刊』全 12 巻の完結別巻刊行確定、『真福寺善本叢刊第三期神道篇』全 4 巻の刊行開始、『天野山金剛寺善本叢刊』全 4 巻の完結。

国際共同研究成果論文集 英語版刊行済 1 冊、刊行予定 2 冊、仏語版刊行済 1 冊 刊行予定 1 冊（日本語版論集編集中）。

学会・研究集会・セミナー・ワークショップ等の為に提供した資料集・図録 18 点。

宗教テキスト遺産研究のための学術集会の開催。

海外での国際研究集会・セミナー・ワークショップ等の開催 18 回。

国内での公開シンポジウム・講演会・フォーラム等の開催 21 回。

宗教テキスト遺産の研究成果の社会連携による総合的展覧会企画・開催。

「列島の祈り」という総合タイトルの許で、日本の宗教儀礼テキストとその文化遺産をめぐって、人間文化研究機構の三機関（国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センター）と神奈川県立歴史博物館、同金沢文庫、國學院大學神道博物館と CHT の 7 機関による協約を締結し、四館による特別展を企画・開催。「祈りと救いの中世」国文学研究資料館「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」神奈川県立歴史博物館「顕われた神々 中世の霊場と唱導」同金沢文庫「舞楽」「大嘗祭」國學院神道博物館の 5 展覧会が 2018 年 9 月から 2019 年 1 月にかけて催され、累計 31,450 名の観覧者があった。また各館の展覧会図録<sup>(注 4)</sup>が編まれ、その全てに研究代表者が総論を執筆した。講演会やセミナー等が行われた。本科研はその全てに全面的に関与し、研究成果の社会還元を果たした。

引用文献

- (注 1) 国立歴史民俗博物館研究年報第 188 集・2017 年・389 頁・阿部泰郎・松尾恒一編『中世儀礼テキストの総合的研究 館蔵田中穰旧蔵『転法輪鈔を中心に』
- (注 2) 阿部泰郎編、落合俊典・塩村耕他執筆『愛知県史 別編文化財 4 典籍』2015 年。
- (注 3) 阿部泰郎編『六所家資料 聖教 東泉院聖教目録』2015 年。
- (注 4) 国文学研究資料館『祈りと救いの中世』64 頁、神奈川県立歴史博物館『鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』175 頁、金沢県立金沢文庫『顕われた神々 - 中世の霊場と唱導』112 頁。

### 5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 13 件)

- ・稲葉伸道、尾張国真福寺開山能信百年忌法要にみる室町中期の真福寺「一門」、愛知県史研究、23、2019 年、18-32、査読有。
- ・阿部泰郎、「神仏の儀礼と宗教空間を担うもの - 唱導・仏像・仮面」、説話文学研究 53、1-5、2018 年、査読有。
- ・阿部泰郎、「中世の縁起・説話における「結界破り」と「穢れを負う聖」の伝承」、宗教民俗研究 27、93-108 頁、2018 年、査読有。
- ・稲葉伸道、「尾張国真福寺開山能信百年忌法要にみる室町中期の真福寺「一門」」、愛知県史研究、18-32 頁、2018 年、査読有。
- ・上島亨「Kami and Buddhism in the No Miwa: Rethinking the Study of the Amalgamation of Kami and Buddhas (shinbutsu shugo)」、Japanese Religions (NCC Center for the Study of Japanese Religions) Vol.42-1.2、25-38 頁、2018 年、査読有。
- ・岡田莊司、「稲と粟の祭 大嘗祭と新嘗」、國學院雑誌、1-13 頁、2018 年、査読有。
- ・末木文美士、「娯楽か信心か 釈迦伝を通して近世仏教を考える」『現代思想』、8-17 頁、2018 年、査読有。
- ・阿部泰郎、「聖徳太子と説話」、説話文学研究 52、1-5 頁、2017 年、査読有。
- ・近本謙介、「女院と尼僧の信仰の軌跡 - 根津美術館蔵「春日若宮大般若経」をめぐって」、説話文学研究 51、90-150、2017 年、査読有。
- ・小林健二、「『舞の本絵巻』の制作をめぐる諸問題」国文学研究資料館紀要 43、1-55 頁、2017 年、査読有。
- ・阿部泰郎、「異界との交信と宗教テキスト」、日本學研究 48 (韓国檀国大学校)、9-34 頁、2016 年、査読有。
- ・阿部泰郎、「『とはずがたり』における泣不動説話の再文脈化」、国語と国文学 92-5、82-99 頁、2015 年、査読有。
- ・近本謙介、「南都における浄土信仰の位相 - 貞慶と『春日権現験記絵』をめぐって」、国語と国文学 92-5、52-65 頁、2015 年、査読有。

[学会発表](計 12 件)

- ・コロンビア大学、国際学会「境界・芸能・神仏」(総括講演)「立ち現れる中世の境界空間 - 鶴岡八幡宮・一遍・面掛行列」、阿部泰郎 (2019 年 3 月)
- ・ハーバード大学ライシャワーセンター、International Symposium: Medieval Japanese

- Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions (日本仏教の展開とその造形) 国際学会、上島享「密教修法の構成・特質と中世社会 孔雀経法を通して」(2019年1月)
- ・カリフォルニア大学サンタバーバラ校、国際学会「灌頂の世界」(基調講演)「灌頂の文化 - 日本における灌頂儀礼の展開」阿部泰郎(2018年5月)
  - ・コレージュ・ド・フランス、国際「論義」学会、(基調講演)「論義と宗論の文化史」阿部泰郎(2017年10月)
  - ・EAJS リスボン大会パネル「中世日本の宗教的身体観」ファビオ・ランベツリ、阿部泰郎(2017年8月)
  - ・説話文学学会大会シンポジウム、「神仏の儀礼と宗教空間を担うもの - 唱導・仏像・仮面」阿部泰郎(2017年6月)
  - ・ヘブライ大学イスラエル日本国際学会、「中世の夢と託宣」阿部泰郎(2016年6月)
  - ・説話文学学会例会シンポジウム、「山寺をめぐる道と山寺に遺された書物 - 地方の文化遺産から見えるもの」阿部泰郎(2016年12月)
  - ・説話文学学会大会シンポジウム、「聖徳太子と説話」阿部泰郎(2016年6月)
  - ・カリフォルニア大学サンタバーバラ校国際学会、「海と日本宗教」(招待報告)「海より来る仏」阿部泰郎(2016年6月)
  - ・説話文学学会例会シンポジウム、「女院と尼僧の信仰の軌跡 - 根津美術館蔵「春日若宮大般若経」をめぐる」近本謙介(2014年12月)
  - ・EAJS リュブリヤナ大会パネル「中世における宗教的身体」ルチア・ドルチェ、阿部泰郎(2014年8月)

〔図書〕(計26件)

- ・阿部泰郎、「宗教テキストが繋ぐ文学と宗教史 - 源信伝と仮託聖教『真如観』の地平」『日本宗教史』第一巻、吉川弘文館、(2019年刊行決定、総頁数未定)
- ・阿部泰郎、「宗教テキスト探査から展望される中世禅の地平」『中世禅籍叢刊』別巻、臨川書店、(2019年刊行予定、540頁)
- ・阿部泰郎・岡田莊司他編 CHT 監修、『真福寺善本叢刊 第三期神道篇』第2巻「麗気記」488頁、2019年
- ・阿部泰郎監修、江口啓子他編、『室町時代の女装少年×姫『ちごいま物語』絵巻の世界』笠間書院、264頁、2019年。
- ・阿部泰郎、山本聡美他、『Studies in Japanese Literature and Culture National Institute of Japanese Literature』国文学研究資料館、2019年、1-94(1-28)頁。
- ・阿部泰郎、『CORPS ET MESSAGE, Editions Picquier』2019年、320(119-129)頁。
- ・小林健二、『描かれた能楽一芸能と絵画が織りなす文化史』吉川弘文館2019年、336頁。
- ・岡田莊司、『大嘗祭と古代の祭祀』吉川弘文館、2019年、346頁。
- ・稲葉伸道、『日本中世の王朝・幕府と寺社』吉川弘文館、2019年、388頁。
- ・伊藤聡、岡田莊司、阿部泰郎、大東敬明、名古屋大学人類文化遺産テキスト学術センター『麗気記<真福寺善本叢刊第二期(神道篇)2』臨川書店、2019年、485頁。
- ・阿部泰郎、『Buddhas from Across the Sea: The Transmission of Buddhism in Ancient and Medieval Temple Narratives(engi)』2018年、261(119-134)頁。
- ・阿部泰郎・吉原浩人共編、近本謙介、『南岳衡山と聖徳太子信仰』勉誠出版、352(阿部3-20、近本167-190)頁、2018年。
- ・阿部泰郎、『中世日本の世界像』名古屋大学出版会、604頁、2018年。
- ・阿部泰郎、末木文美士他編『中世禅籍叢刊』全十二巻、臨川書店、(7,935頁)2014-2018年。
- ・末木文美士、『冥顕の哲学』1、276頁、2018年。2、332頁、2019年、ぷねうま舎。
- ・落合俊典編、『根津美術館蔵「春日若宮大般若経および厨子」調査報告書』国際仏教学大学院大学日本古写経研究所、354頁、2018年。
- ・近本謙介他(後藤昭雄監修)、『天野山金剛寺善本叢刊第二期』勉誠出版、第三巻「儀礼・音楽」656頁、第四巻「要文・経釈」660頁、第五巻「重書」426頁、2018年。
- ・末木文美士、『日本思想史の射程』敬文舎、319頁、2017年。
- ・近本謙介他(後藤昭雄監修)、『天野山金剛寺善本叢刊第一期』第一巻「漢学」勉誠出版、758頁、2017年。
- ・伊藤大輔、『天皇の美術史2』(加須屋誠と共著)、吉川弘文館、204(9-90)頁、2017年
- ・稲葉伸道編、『中世寺社と国家・地域・史料』法蔵館、523頁、2017年。
- ・阿部泰郎、『五形祭文と五蔵曼荼羅 - 中世日本の宗教的身体観の系譜』斎藤英喜・井上隆弘編『神楽と祭文の中世』思文閣出版、375(70-92)頁、2016年。
- ・末木文美士、『親鸞』ミネルヴァ書房、311頁、2016年。
- ・阿部泰郎、落合俊典、塩村耕他、『愛知県史別編文化財4典籍』愛知県、790(阿部2-29、136-154、落合32-101、塩村692-734)頁。2015年。
- ・阿部泰郎、『猿投神社の典籍』豊田市、132頁、2015年。
- ・阿部泰郎、『融通大念仏鐘縁起』絵巻の創造と展開 - 中世後期宗教図像テキストの一考察』『融通念佛宗における信仰と教義の邂逅』法蔵館、754(287-324)頁、2015年。



〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ <https://www.lit.nagoya-u.ac.jp/cht/>

新聞記事 朝日新聞中部版(2018.3.26)大須文庫フォーラム紹介記事および(4.15 文化欄インタビュー記事掲載、中外日報特集記事「論」(2018.10.3.～2019.1.25.まで連載)シリーズ「中世禅の再考」

大学によるアウトリーチ活動 「大須文庫フォーラム」(2018.3.25)、「三禅定絵解きフォーラム」(2018.7.23)等(名大トピックス掲載)。

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：岡田 荘司 ローマ字氏名：Okada Syouji 所属研究機関名：國學院大學  
部局名：神道文化学部 職名：教授 研究者番号（8桁）：60146735

研究分担者氏名：落合 俊典 ローマ字氏名：Ochiai Toshinori 所属研究機関名：国際仏  
教学大学院大学 部局名：その他の研究科 職名：教授 研究者番号（8桁）：10123431

研究分担者氏名：末木 文美士 ローマ字氏名：Sueki Fumihiko 所属研究機関名：国際日  
本文化研究センター 部局名：研究部 職名：名誉教授 研究者番号（8桁）：90114511

研究分担者氏名：松尾 恒一 ローマ字氏名：Matsuo Kouichi 所属研究機関名：国立歴史  
民俗博物館 部局名：大学共同利用機関等の部局等 職名：教授 研究者番号（8桁）：  
50286671

研究分担者氏名：上島 亨 ローマ字氏名：Uejima Susumu 所属研究機関名：京都大学  
部局名：文学研究科 職名：教授 研究者番号（8桁）：60285244

研究分担者氏名：西岡 芳文 ローマ字氏名：Nishioka Yoshifumi 所属研究機関名：上智  
大学 部局名：文学部 職名：教授 研究者番号（8桁）：90443407

研究分担者氏名：古川 元也 ローマ字氏名：Furukawa Motoya 所属研究機関名：日本  
女子大学 部局名：文学部 職名：教授 研究者番号（8桁）：60332392

研究分担者氏名：小林 健二 ローマ字氏名：Kobayashi Kenji 所属研究機関名：国文学  
研究資料館 部局名：研究部 職名：教授 研究者番号（8桁）：70141992

研究分担者氏名：向坂 卓也 ローマ字氏名：Mukouzaka Takuya 所属研究機関名：神奈  
川県立金沢文庫 部局名：学芸課 職名：主任学芸員 研究者番号（8桁）：10443409

研究分担者氏名：稲葉 伸道 ローマ字氏名：Inaba Nobumichi 所属研究機関名：名古屋  
大学 部局名：人文学研究科 職名：名誉教授 研究者番号（8桁）：70135276

研究分担者氏名：塩村 耕 ローマ字氏名：Shiomura Kou 所属研究機関名：名古屋大学  
部局名：人文学研究科 職名：教授 研究者番号（8桁）：80178855

研究分担者氏名：池内 敏 ローマ字氏名：Ikeuchi Satoshi 所属研究機関名：名古屋大学  
部局名：人文学研究科 職名：教授 研究者番号（8桁）：90240861

研究分担者氏名：近本 謙介 ローマ字氏名：Chikamoto Kensuke 所属研究機関名：名古屋  
大学 部局名：人文学研究科 職名：准教授 研究者番号（8桁）：90278870

研究分担者氏名：佐々木 重洋 ローマ字氏名：Sasaki Shigehiro 所属研究機関名：名古屋  
大学 部局名：人文学研究科 職名：教授 研究者番号（8桁）：00293275

研究分担者氏名：伊藤 大輔 ローマ字氏名：Itou Daisuke 所属研究機関名：名古屋大学  
部局名：人文学研究科 職名：教授 研究者番号（8桁）：00282541

(2)研究協力者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。